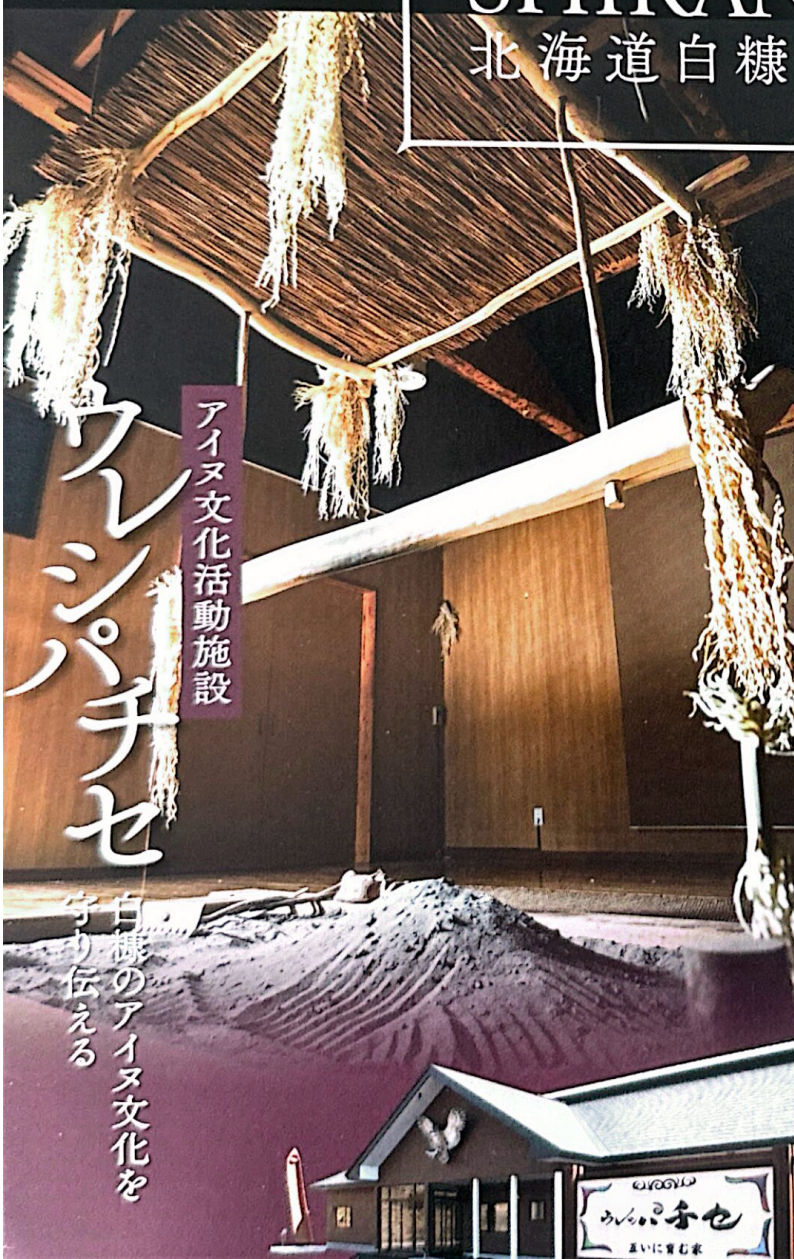


白糠のアイヌ文化を2つの拠点で継承する

SHIRANUKA AINU

北海道白糠町 アイヌ文化活動拠点



アイヌ文化活動施設

ウレシパチセ

白糠のアイヌ文化を
守り伝える



2024.4

オープン

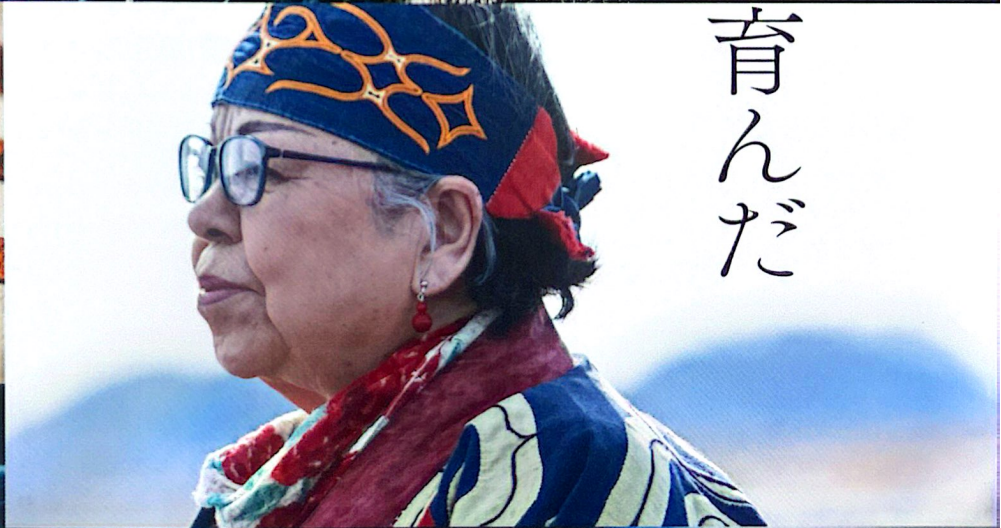
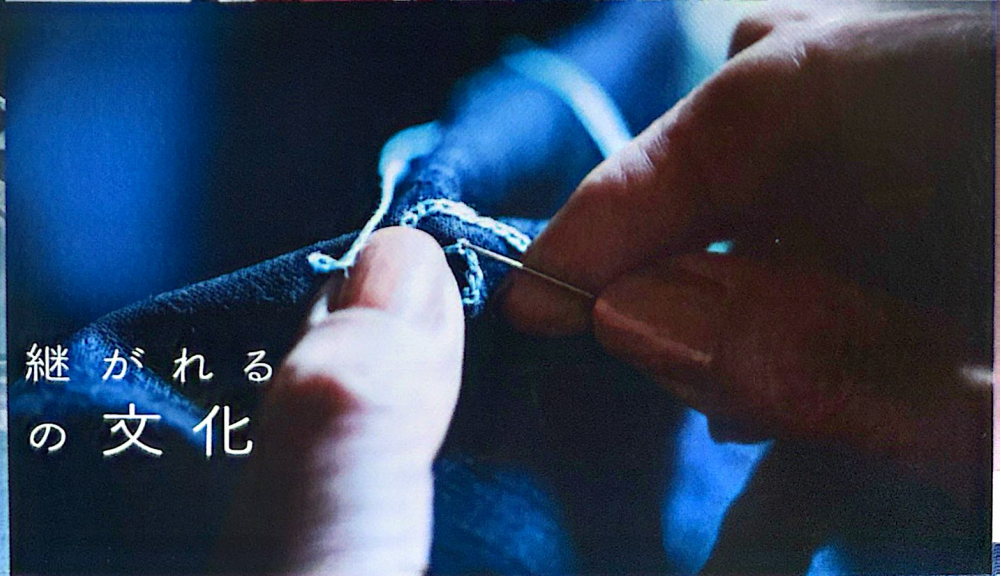
ホコロ

白糠のアイヌ文化を
鮮やかに発信する

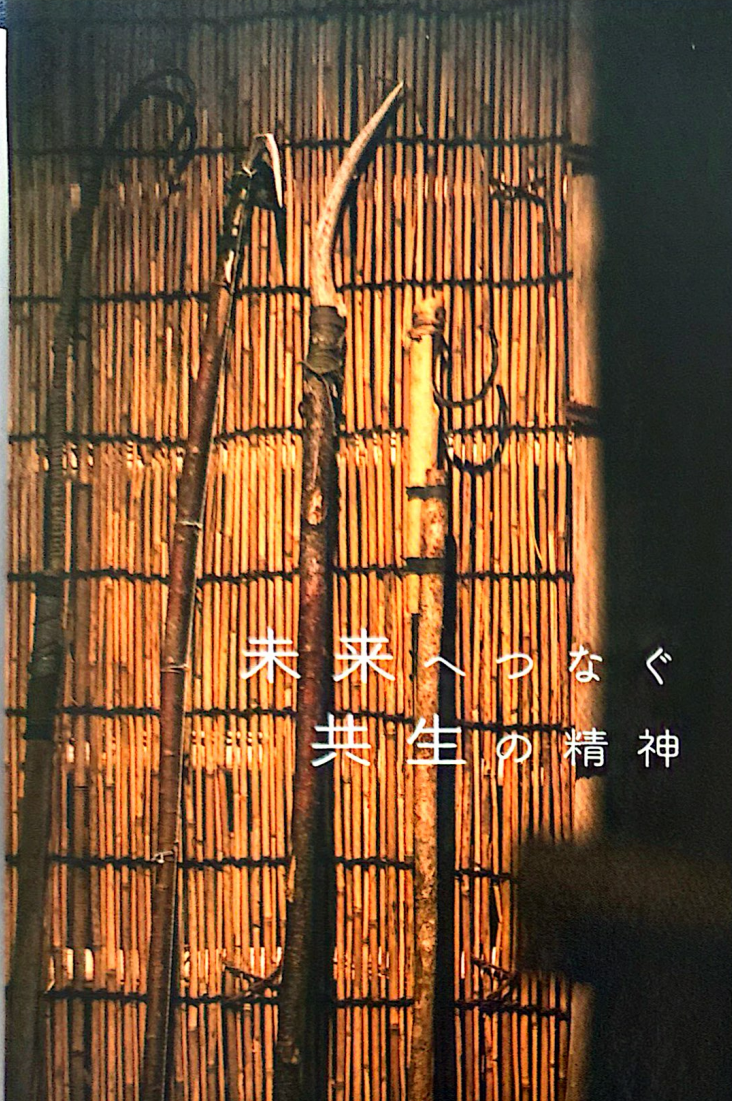
白糠アイヌミュージアム



海と森、大自然が
アイヌの暮らし
育んだ



受け継がれる
独自の文化



未来へつなぐ 共生の精神

町全体に息づくアイヌの精神と文化

アイヌ民族は、北海道の厳しい自然環境の中で、いくつもの時代を超えて独自の文化を育んできました。

狩猟や漁労、採集によって生き抜くことで、季節の恵みをもたらしてくれる自然はもちろん、火や水、衣服や生活の道具にいたるまで、身の回りのあらゆるものにカムイ(神)が宿っていると考え、その精神を伝えてきました。

海あり、山あり、豊かな自然に囲まれたシラヌカのアイヌの人たちも、「自然と調和し共存すること以上に大切なことはない」と、自然を大切に思う心を受け継ぎ、暮らしを営んできました。

白糠町では、このようなアイヌの人たちの精神と文化を、この町の大切な財産として次代へ伝えるため、町全体が「イオル(伝統的生活空間)」という考えのもと、町民が一体となって、人と自然が共生するまちづくりを推進しています。

2024年春、この町に伝わるアイヌ文化を紹介する「白糠アイヌミュージアム『ポコロ』」が誕生しました。アイヌ文化の活動・発信拠点である「ウレシパチセ」とともに、より深く、鮮やかにアイヌ文化を発信します。2つの施設をとおして、この町のアイヌ文化を実感して理解を深めてください。



「ポコロ」と「ウレシパチセ」 2つの拠点でアイヌ文化を発信

先住民族であるアイヌの方々と、お互いの協力なくしてまちづくりは成り立ちません。また、温暖化をはじめ地球環境の危機が叫ばれる中で、自然と共生してきたアイヌの人々の暮らしには、学ぶべきところがたくさんあります。白糠町では、町全体が「イオル(伝統的生活空間)」と考え、アイヌ三大祭の開催や、学校教育で自然環境と融合するアイヌ文化を学ぶなど、様々な取り組みを行っています。そしてこの度、アイヌ文化活動と発信の拠点「ウレシパチセ」に加え、白糠のアイヌ文化を紹介する展示施設「ポコロ」を開設しました。この2つの施設を白糠アイヌ文化の保存と伝承の要として活用していきます。



白糠町長 棚野 孝夫

1949年生まれ、白糠町出身。会社員を経て1996年に町長に就任し、現在7期目。子や孫に贈れるまちづくりを目指し日々邁進。北海道町村会長、全国町村会副会長も務める。



3 研修室

アイヌの伝統的な文様刺繍や舞踊、ムックリ演奏など、アイヌ文化を体験することができます。隣の伝承室とひと続きの広間にもすることもでき、大人数の研修やイベント、ライブにも対応します。



2 伝承室

アイヌ三大祭などの伝承儀式のはじめに、火の神に祈りを捧げる「カムイノミ」を行います。

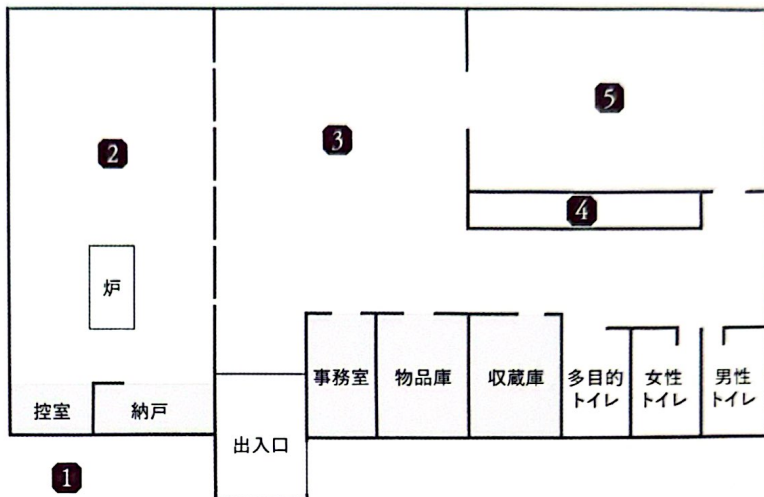
1 天に昇る丸木舟

飢えに苦しむコタンの仲間を助けるため、危険をかえりみず丸木舟で海へ出た青年と少女の物語がモチーフのモニュメント。舳先が上を向き、天に昇る姿を表現しています。1987年製作。



5 調理室

調理室ではアイヌ料理講座も開催します。肉や魚、野菜の汁物「オハウ」や「いなぎびご飯」、和え物「ラタシケブ」など、アイヌ民族が昔から親しんできた料理を作って味わい、食文化を体験します。



4 展示コーナー

多目的ロビーには、アイヌ文化を紹介する展示コーナーがあります。アイヌ文様を施した民族衣装をはじめ、儀式で用いる祭具、木彫りの工芸品などバリエーション豊富です。



白糠のアイヌ文化を伝承する取り組み

まちぐるみで積極的に取り組む文化の保存と伝承

アイヌ民族が礎を築いた白糠町。伝承儀式としてアイヌ三大祭を毎年開催するなど、白糠アイヌ協会と白糠アイヌ文化保存会が主軸となり、まちぐるみでアイヌ文化の保存と伝承に取り組んでいます。アイヌの人々は、古くからの伝説や物語を語り継ぎ、独自の歌や踊りを伝承してきました。先祖や自然への感謝を伝えるアイヌ古式舞踊は、国の重要無形民俗文化財に指定されており、ユネスコ無形文化遺産にも登録されました。また、

台湾先住民族と民族間の友好交流提携を締結するなど、幅広い文化交流を行っています。

2020年に台湾烏来区の区長をはじめとする訪問団が白糠町を表敬訪問。



白糠アイヌ協会



会長 天内重樹さん

アイヌ民族の社会的地位向上と文化の保存・伝承、発展のために活動。毎年アイヌ三大祭を開催します。

白糠アイヌ文化保存会



会長 磯部恵津子さん

古式舞踊、儀式、衣装、工芸など、民族伝統文化の保存・伝承活動と、アイヌ文化の振興に努めています。

アイヌ古式舞踊



「アイヌ古式舞踊」は国の重要無形民俗文化財として全道各地で保護されています。白糠町では、「フンベリムセ」(鯨の踊り)や、舟こぎの踊り、弓の舞など、保存・伝承に取り組んでいます。



白糠のアイヌ文化を守り伝える

ウレシパチセ

JR白糠駅から歩いて6分に位置するウレシパチセは、「互いに育む家」という意味を持つアイヌ伝統文化の活動拠点施設です。白糠町のアイヌ三大祭をはじめとする様々な伝承儀式、アイヌ古式舞踊やムックリ演奏、近郊の恵まれた食材を使ったアイヌ料理の教室など、この土地ならではの体験が充実しています。古くから大切に受け継がれてきたアイヌ文化を正しく理解してもらうことを目的に、未来へ向けて積極的に最新の情報を発信しています。



炉と火のカムイ

アイヌ民族は、儀式を行う際や狩猟に出かけるとき、最初に火の神に祈ります。様々なカムイの中でも、炉に鎮座する火の神「アベウチカムイ」は、温もりや灯りを与え、煮炊きをさせてくれるだけでなく、家の中を見守ってくれる大切なカムイです。

白糠アイヌ三大祭



ふるさと祭イチャルパ

先祖への感謝と鎮魂の祈りをささげる先祖供養祭。ウレシパチセの近く、岬の森東山公園の「白糠先駆者アイヌ弔魂碑」がある広場で行います。



フンペ(鯨)祭イチャルパ

シラヌカコタンの飢饉を救ったフンペの伝説を由来とする、自然と天の恵みに感謝する祭り。バシクル海岸で「フンペリムセ」を奉納します。



ししゃも祭

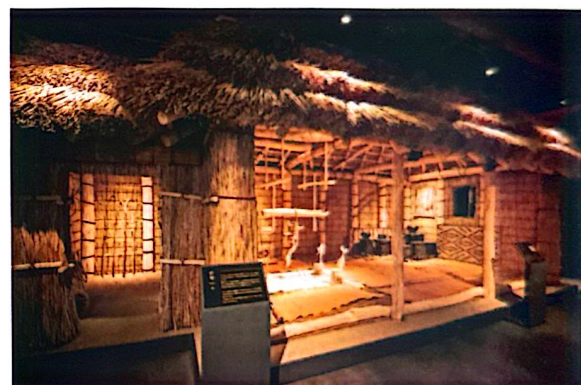
ししゃも魚の安全操業と豊漁を祈願します。老夫婦が天に祈ると、柳の葉が魚の群れを連れて川を遡った伝説をもとに、茶路川河畔で行います。

白糠のアイヌ文化を
鮮やかに発信する



ポコロ

ポコロの名前には、白糠のアイヌの人々の「生まれ育った場所を大切にしたい、という想いが込められています。アイヌの暮らしを表現した精巧なジオラマや、隅々までリアルに再現したチセ、伝統的な工芸品と美しい衣装、そして館内全体を包み込む「イオル、のサウンド・スケープ。活き活きと映し出される豊かなアイヌの暮らしを五感で感じ、厳しくも雄大な自然と生きてきたアイヌ文化にふれることで、より理解を深めることができます。



4 チセ(家)の再現展示

祭具や生活道具を配した、アイヌの暮らしを体感できるチセ(家)を展示。丸太を柱に、壁や屋根にはヨシを厚く貼ることで断熱材の効果があり、夏は涼しく、冬は暖かく過ごせるといわれています。チセの中心にはアベソ(炉)があり、川の上流の方位にカムイの出入り口である「神窓」が設けられています。



出前講座



白糠町内すべての小中学校で「アイヌ文化出前講座」を実施。アイヌ語や伝統的な歌や踊り、ムックリ演奏、料理などを体験しながら、子どもたちにアイヌの歴史・文化を伝えています。

アシル-トイタ



アイヌ伝承有用植物から体に良い食物を見出し開発するプロジェクト「アシル-トイタによる心と体に響く新しい食の価値共創拠点」。室蘭工業大学、自治体、企業が協力して取り組んでいます。

映画シサム



自然豊かな白糠町をメインのロケ地とし、リアルなチセ(家)のセットやアイヌ語など、白糠アイヌ協会の協力により制作された映画「シサム」。2024年9月13日から全国公開。



5 ヌサ(祭壇)

チセの神窓の外にはヌサ(祭壇)を設け、儀式でカムイに捧げるイナウを祭りました。イナウは、木を小刀で削って作る祭具です。



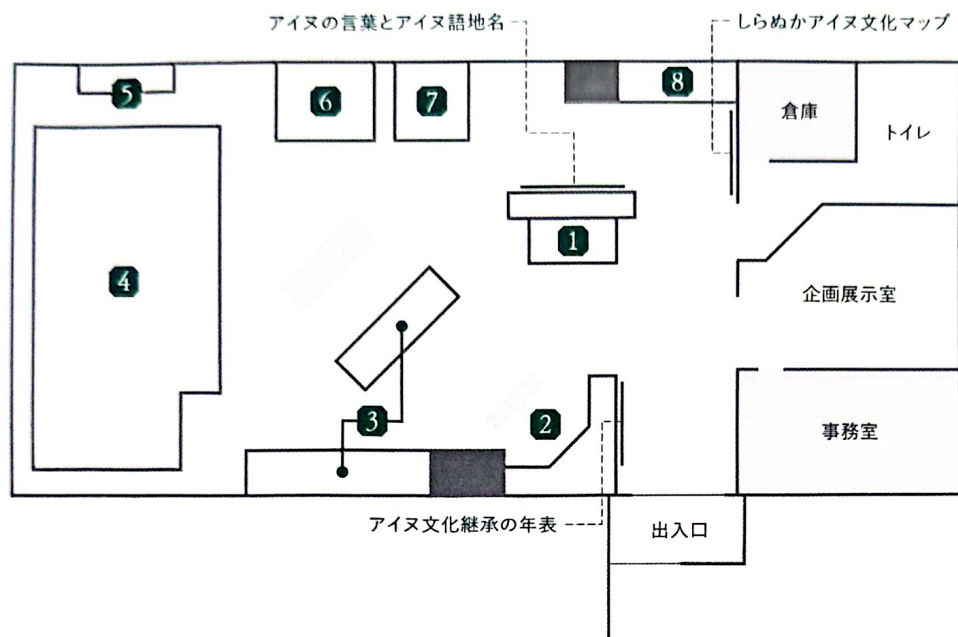
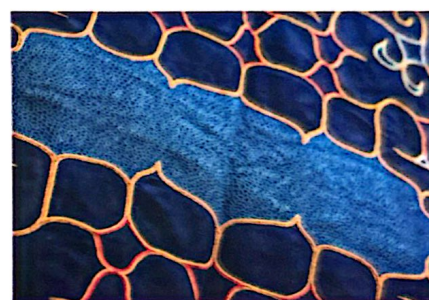
6 プ(食糧庫)

プは、高床式食糧庫で、2〜3年分の食料を保存していたといわれています。山菜や木の実を乾燥させ、肉や魚は燻製し長期保存しました。



7 エペレセツ(熊檻)

カムイから預かった仔熊をイヨマンテ(熊送り)で送るまで飼育しました。1〜2年育ててから神の国に送る儀式を行います。



8 間宮喜代子ギャラリー

アイヌ文様刺繍の最優秀工芸師・間宮喜代子さんの作品を展示。最高難度の技「エタラカ」で刺す、蜘蛛の糸のような繊細な文様が特徴です。



2 映像アーカイブ

伝承儀式「ふるさと祭イチャルパ」「フンベ(鯨)祭イチャルパ」「ししゃも祭」のほか、白糠町を舞台に広がるアイヌの知恵が導く新しい食の価値づくり「アシル-トイタ」の取り組みを映像で紹介します。



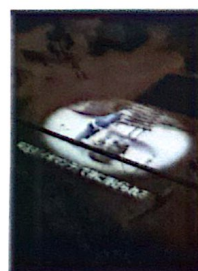
3 衣服や民具の展示

特徴的な民具や、アイヌ文化を象徴する衣服を「盛装した男性」「盛装した女性」「日常生活での衣服」として3体で人物再現しています。



1 ジオラマ

アイヌコタンの暮らしを再現した60分の1のスケールジオラマ。プロジェクションマッピングによる演出で、様々なシーンをリアルに表現します。



↑ 至 庶路IC

、至白糖IC

小中学校

茶路川

廣
路
川

242

乳呑自然公園
(チノミチヤシ跡・チノミ遺跡)

「チノミ」はアイヌ語で“祭場”を指します。乳呑自然公園近くの丘の上にあるチノミチャシは、周辺のコタンの人々が集まる共同祭場だったと考えられています。同じ場所にあるチノミ遺跡からは、エムシ(刀)とエムシアツ(刀吊帯)が出土しています。

コイトイチャシ跡

コイトイ川河口から4キロほどの高さ約50メートルの段丘上にある、一条の壕をもつ丘先式のチャン跡。古くから「アイヌの城」といわれ、その前の沢は「アイヌの酋の沢」と呼ばれていました。

坂の丘チャシ跡

白糠市街の西、「坂の丘」と呼ばれる段丘の南東隅にある、壕をもつ丘先式のチャシ跡。高さ約30メートルの孤島状の段丘は、東側に茶路川、西側に和天別川、南側に太平洋を望みます。

白糠のアイヌ文化
鮮やかに発信す
ポコロ

白糠のアイヌ文化を
守り伝える
ウレシパチセ

白糠こども園 ●
白糠学園
和天別川

オクネツブ

徒步約6...

棟

岬の森
東山公園

サシウシチャシ跡

太平洋に面した高さ約58メートルの崖の上にあり、東側には深い沢、西と北側には二重の壕と土塁が設けられています。続縄文時代から擦文時代、アイヌ文化期にいたる遺構と考えられています。

白糠の地名の由来

白糠はアイヌ語の「シリリ(磯)・カ(上・超える)」に由来し、波が磯を
超えてしぶきが立つ「岩磯のほと
り」を意味します。白糠漁港へ注ぐ
オクネッ川河口から、岬の森東山
公園の東側を流れるシリリカッ
川河口にかけての岩磯地帯を見て
つけられたと考えられています。

フンペリムセ(鯨踊り)
登祥の由来

白糖のアイヌの人々が飢えに苦しんでいたとき、カラスの鳴き声に導かれてバシクルの浜辺へいくと、大きなフンベ(鯨)が打ち上げられていました。天恵の食料として感謝していただき、その場で即興的に舞われたリムセが、今に伝承されたといわれています。「バシクル」はアイヌ語でカラスを意味します。

パシクル自然公園

太平洋に面したバシクル沼。周辺は自然豊かな公園で、アッケシアイヌとの戦いや「フンベリムセ」発祥など数々のアイヌ伝説の舞台となっています。

シリエトチャシ跡

坪の森東山公園の南西、約35メートルの山上にあります。太平洋に面し、すぐ下にオクネッ川が流れ、臨海・臨川性の丘先式チャシ跡です。隣接する広場にアイヌ弔魂碑が建立されています。

石炭岬チャン跡

岬の森東山公園の南東、標高約45メートルの岬の上にあります。徳川幕府直轄の炭鉱が開かれたことが地名の由来で、昔は「シリ(大地の)・エトッ(鼻)」と呼ばれていました。

お問い合わせ

ポコロ

白糠町和天別1852番地8
Tel. 01547-6-0522
開館時間／9時～17時
休館日／月曜日、12月29日～1月3日
駐車場／25台

【笑顔輝く太陽のまち】
白糖町
公式ホームページ



ウレシパチセ

白糠町東3条北1丁目2番地27
Tel. 01547-2-5668
開館時間／10時～18時
休館日／月曜日、12月29日～1月3日
駐車場／16台・2台(大型車両)

【ひがし北海道白糠町】
白糠町
公式インスタグラム



白糠町役場

保健福祉部介護福祉課
社会福祉係
白糠町西1条南1丁目1番地1
Tel. 01547-2-2171
shakaifukushi@town.shiranuka.lg.jp

【紫蘇香るまち】
白糠町
公式LINE

